

赤羽さんの演奏



今月のFujimist

あかば たくま 赤羽 拓真 さん(打楽器奏者)

関文化・スポーツ振興課 ☎049-257-6352

ただの打楽器奏者ではない。カホンやコンガ、ジャンベなど手で演奏する「ハンドパーカッション」を中心にさまざまな種類の打楽器を演奏できるだけでなく、塩化ビニールパイプを使って音階のある打楽器(写真右側)を自作するなど、赤羽さんの打楽器の新しい表現への探求心はとどまるところを知らない。

その探求心を武器に、国内の演奏活動だけでなく、アメリカを拠点に活動する「American Wind Symphony Orchestra」への参加やオランダやベルギーでの公演など、さまざまなステージで音楽活動を行うとともに、TV番組「ワンワンパッコロ！キャラともワールド」(NHK-BSプレミアム)への出演など、各方面で活躍している。

探求心の源となっているのは、幼稚園生の子供に見た、父のバンドのドラマー。情熱的な打楽器の鼓動を聞いて、早くもプロの打楽器奏者になることを志した。幼稚園では鼓笛に親しみ、9歳から富士見太鼓の会に所属して約10年間、会の中心的な演奏者として市のイベントに多数出演し、自身の成人式でもキラリ☆ふじみの舞台に上がった。プロになる夢を叶えたのは、武蔵野音楽大学在学中の20歳の

ころ。そんな生粋の打楽器奏者の赤羽さんに、打楽器の魅力聞いてみた。「楽器の中には音を出すこと自体が難しかったり、楽譜が読めない演奏できないものもありますが、打楽器はとにかくたたけば音が出る。応用すれば机や椅子でも何でも打楽器になる。それが打楽器の最大の魅力ですね」。

近年は子どもへの音楽教育にも注力し、幼稚園教諭や保育士の音楽研修会などでも講師を務め、今年度は、子どもたちに優れた文化芸術に触れてもらう市の取組み「子ども文化芸術大学☆ふじみ」(P22参照)で講師を務める。

「打楽器は多くの人に親しみやすいことに加え、一人でたたいてもそのダイレクトに伝わってくる振動が子どもたちの心を躍らせますし、グループ演奏でも他者と呼吸を合わせることがとても気持ち良く、幼少期に音楽に触れるにはうってつけです。生まれ育ったこのまちで、私の経験を還元できるのはとてもうれしいです。当日は子どもたちとドンドン打楽器をたたいて目いっぱい楽しみたいです」と抱負を語った。数多の打楽器をたたいてきたその手で、子どもたちのハートを震わせるに違いない。

広報「富士見」は、市内の公共施設や駅などにも置いてあります。声の広報「富士見」(音声DASVイナイシー)版は市内図書館で貸し出しています(市ホームページで聴くこともできます)。



市公式 ホームページ



SNS



【カタログポケット】広報「富士見」を多言語で



【マイチロ】広報「富士見」をスマートフォンで



【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴

人口と世帯数(4月1日現在)

人口…112,817人(前月比+361人)
(男 55,394人 女 57,423人)
世帯数…54,116世帯(前月比+388世帯)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。